

1 部 「温故知新で探る歯科技工士の未来」

2 部 「良質な欠損補綴治療を目指すためのコミュニケーション力」

抄録

我が国の総人口は、1億2,495万人（総務省調べ2022年10月1日現在）となっており、その中でも65歳以上の人口は、3,624万人にのぼり高齢化率も29.0%となっています。老年人口指数は今後も上昇を続け、2025年には生産年齢人口（15～64歳人口）のほぼ2人で1人の高齢者を支えることになる見込まれています。

高齢者の割合が増加の一途をたどる中で、歯科補綴の一翼を担う歯科技工の仕事では、歯科技工士としての志をしっかりと持った上で、インプラント技工やデンチャー技工を十分熟知することが益々重要となってきています。歯科医学の歴史を理解し、歯科技工を理解して補綴装置を製作しなければいけません。日々技術を研鑽し努力することが必要であり、勿論それが歯科技工士の使命でもあります。

歯科技工士は、咀嚼・嚥下・発音の機能回復、咬合、審美、そして周囲組織との調和、補綴装置の永続性などを考慮しながら患者さんの健康と幸福のために歯科技工に携わることが最も大切なことだと思います。

歯科技工士が向上心を失い、本来の使命を理解せず、学術的な知識と技術を身につける努力を怠ると、どんなにCAD/CAM機器やAIが進歩したとしても、良質な補綴装置を製作することはできません。近年、デジタル化が進む歯科技工でアナログ技工の重要性が盛んに述べられるようになってきています。機械が上手いのではなくそれを扱う歯科技工士がしっかりと本質をとらえて初めて上手くいくのです。

一方で、国は「働き方改革」を進める中、歯科技工士の労働環境の改善は一向に前進していないのが現実であります。私達がゆとりある歯科技工ライフをおくる事で、しっかりと国民目線で考えることのできる歯科医療現場になり、患者さんからの信頼が得られるのではないのでしょうか。

そのことを踏まえたうえで、今回1部では「温故知新で探る歯科技工士の未来」をテーマとし、様々な側面から掘り下げ、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

そして2部では「良質な欠損補綴治療を目指すためのラボコミュニケーション力」についてお話しさせていただきます。

是非お付き合いください。